



## 自分の進路(人生)について考えよう

### ○「卒業生と語る会」を終えて

7月12日(金)に、令和3年度末の卒業生と昨年末の卒業生を招いて「卒業生と語る会」を開催しました。2年前に就職した先輩4名は全員仕事を続け社会で活躍していました。働き始めて、現在3年目。多くの経験を積み重ねた後の体験談には実感がこもっていました。



一方で昨年度卒業した先輩は、新たな進路先に進んでまだ3か月半。高校とのギャップを克服しようとして今まさに自分と闘っている様子でした。それでもしっかりと前を向く姿が頼もしく見えました。

会の前後に、当日登壇しなかった先輩も含め心境を聞きました。匿名の「ここだけの話」の中から印象に残ったものをまとめたので、会での話と合わせて参考にしてください。

仕事のモチベーションはやはり、経済的な部分。自分の働いた給料で生活ができ、まとまった休みも取れ、趣味にもお金を思い切り使うことができ、預金も増えていく。働いているからこそ給料が入ると思うと多少大変でも頑張れる。

就職をしたことで、多様な人と関わるようになり、社会には本当にいろいろな人がいると実感できたことはすごくよかった。高校生の頃までは、人と関わることにとにかく慎重だったけれど、そんなことでは仕事にならないし、もうどうでもいいや、と吹っ切れたので、かえって自分に自信が持てるようになったというか、成長できたという実感がある。

中学時代の友人に、『学校には全然来られなかったのに仕事はずっと続けられているの不思議だね。』と言われた。学校に行けていたのに仕事を辞めちゃって何もしていない子もいると聞くと、なんでだろうと自分でも不思議に思う。(注)高校ではほぼ皆勤でした。

就職して1か月经ったころ、嫌で嫌で本気で辞めたいと思って上司に申し出たけれど、話を聞いてもらって何とか続けることになり、やけくそで働いてきて、気がついたらいつの間にか2年以上も経ってしまった。自分でも驚いている。

今の仕事は周囲の人にも恵まれていて、不満があったり何かが特別つらいわけではない。でも、いつでもできる仕事だと気づいたので、いずれは転職して他の職種で働きたい。いろいろな企業、いろいろな職種を選ぶチャンスを与えられている貴重な「新卒切符」をもっとよく考えて大事に使えばよかった。もったいなかった。

### ○前を向ける人になる

人生の大事な決定をする時は心身にプレッシャーもかかるし、様々な面倒を乗り越えなければならず大変です。とりあえず決定を先送りにすれば一時的にストレスからは解放されます。

とはいえ、甲殻類の脱皮同様、人生の節目で必然的に発生するその種の外圧を自分の力ではねのけることは、人が大きく成長するために必要な試練でもあります。自分の進路(人生)に真剣に向き合い、選択し、行動することには、結果に関わらず大きな意味があります。

仮に後でその選択を修正することになったとしても、苦難を自分で乗り越えた経験は自信となり、新たな選択をし、挑戦する力となるはずです。

この夏休みには、卒業後の「自分の理想の人生」を肯定的に想像し、自分のために今できることに全力で取り組んでみましょう。

